

# モバイルネットワークの IPv6 推進に向けた取り組み

2015年10月28日

株式会社NTTドコモ  
KDDI株式会社  
ソフトバンク株式会社

# モバイルにおける IPv6 推進に向けた取り組み

2015年

2017年

これまで

IPv6の利用を希望したユーザに対するIPv6接続の提供

1. 小規模なIPv6ネットワークによるIPv6商用提供および構築・運用ノウハウの蓄積
2. IPv6本格提供を見据えたネットワークの準備 (RAN、CN)
3. コンテンツフィルタ機能等必要な装置の機能・性能確認

これから

2017年度を「日本のモバイルフィールドにおけるIPv6利用拡大元年」とすべく、日本のモバイル市場でIPv6のデフォルト提供をはじめている状況とすることを目標とする。

1. 上記目標に向け、大規模運用NWの切り替え等の技術的・運用的・ポリシー的課題の抽出と解決
2. 新しいテクノロジーや設備の更改・導入時のIPv6対応の宣言
3. 着実なIPv6利用拡大に向けた事業者間の意見交換とそれに伴う情報発信等

モバイル3社+有識者で構成される  
民間会議体を構成 (次頁)

# 2017年に向けた進め方

1. 各社IPv6の提供に向けて対応してきたが、サービスへのデプロイにあたって技術・運用・コストその他様々な課題等が存在している。
2. 固定網事業者で実施してきた民間の議論の場（IPv6普及・高度化推進協議会等）がIPv6デプロイの課題解決に成果を上げていることから、モバイル各社でも同様に課題の共有・解決を図りたい。
3. 一方で、課題の共有や解決にはモバイル事業者としてのセキュリティ情報や経営情報等も取り扱う必要がある。これらに配慮しつつ、議論を具体的且つ有意義なものとするために、モバイル事業者と必要な有識者で構成される議論の場を設定する。
4. 議論の場では、携帯網の特徴についての確認を行った後、各社状況の共有・海外事業者の状況調査やヒアリング等を実施し、日本のモバイル市場におけるIPv6推進のために技術面、制度面、運用面、社会的側面など様々な角度から議論していく。
5. 議論の結果等は可能な範囲で適宜共有を図り、モバイルネットワークだけでなくコンテンツ等も含めた日本の電気通信市場全体のIPv6啓発・推進を図っていきたい。

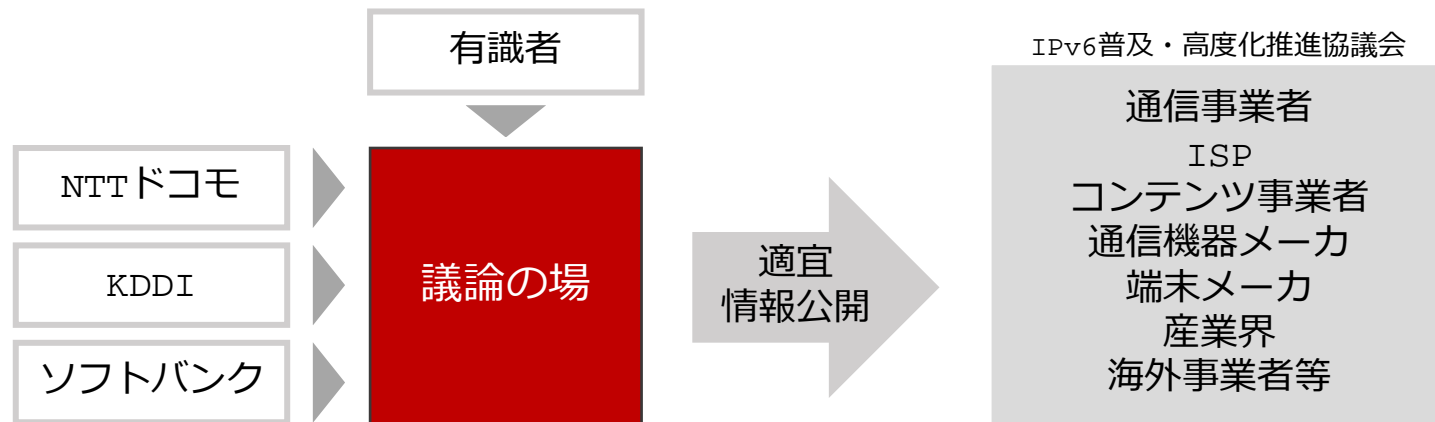


図1 議論の体制（イメージ）